

菅生ヶ丘緑地の野草の保護対象植物

自生していた植物の内保護している植物

ホトトギス（ユリ科） 保護区内に自生しているが補植した。

ホウチャクソウ（ユリ科） 群落があり杭とロープで立ち入り規制する計画中。
保護用の竹支柱に赤いテープを巻き目印に立てたが短い期間に無くなってしまった。今後は杭とロープで規制を掛ける準備を計画中。

ホタルブクロ（キキョウ科） 保護区内に自生しているが補植をした。

センニンソウ（キンポウゲ科） 園内に自生している、小さな株を保護区内に移植した。
クレマチスの仲間で原種です、初夏に真っ白な十字の形をした花を沢山着けます。寺家ふるさと村の畦に多く見られますので昔は同じような環境であったと考えられます。

シドミ（バラ科） 園内に5株ほど自生しているが移植はリスクが高い。町田市の野津田公園周辺の里山や田畑に自生が見られますので、昔は同じような環境であったと考えられます。
野生のボケのことですが「シドミ」「シドメ」等地方によって呼び名が違います。木本です。

キショウブ（アヤメ科） 園内に1株自生しているが移植はリスクが高い。
また水路脇の湿気のある適地に自生しているので移植はしない。
緑地になる以前にはこの場所は水田があったそうですのでそのなごりの植物です。

ヘビイチゴ（バラ科） 平場の広場に多く自生していたが踏まれてしまい生育が不良の為保護区内に一部移植。

保護の方法

園内に1ヵ所の保護区と自生地の保護区を設定します。

立ち入りや踏まれを防止する為の囲いを杭と公園用ロープで作ります。

適期に挿し木、株分け、採種などをして増殖復元を目指します。